

静岡大学附属図書館報

図書館通信

● 幸いなるや新入生	1 ~ 2
● 「新入生が自分に薦める本を見つけるために」	3
● 新入生のための浜松分館図書館案内	4 ~ 5
● 4 ~ 9月の開館日程表	6
● 教官著作寄贈図書一覧&図書館の動き	7
● 新入生へのお知らせ	8

幸いなるや新入生

附属図書館長 浅井哲也

心貧しき者は幸いなり。私にはこの言葉が不可解だった。あるとき英訳聖書でその謎が解けた。正しくは、心の貧しいことを知っている者は幸いである。つまり、空虚な心が満たされることを渴望する者にはやがて幸いが訪れるであろう、ということ。爾来、ソクラテスの無知の知とも相い通じることかなと理解することにした。されば、憧れと熱望あるべし、新入生！

で、大概の諸君は我こそは求知者たらんとし、やおら勉強を開始するわけだが、たちまち出くわすのが難解という壁。私なんぞ恥ずかしや、ホンノ数行で放り出してしまった書物が何と多いことか。始めは本のせいにするが、そのうち劣等感にさいなまれることになる。それでもなんとか私はその内、慰めの言葉に出会うことができたのであった。

今年は初めて両キャンパスそれぞれに新入生を迎える記念の年、歓迎と祝福の意を込めて、さりとて諸君への薬効は保証しないけれど、私がいつも持業としている言葉の幾つかをここに披露してみようと思う。

最初は、格調高くデカルト先生。『方法序説』は考えがあつて母国語であるフランス語で書いたデカルトであったが、『哲学原理』は当時の習慣に従いラテン語によつ

て書かれた。やがてフランス語版が出たとき、友人でもあった訳者にあてた手紙の形でデカルト自身が序文を付け加えた。これに有名な「仏訳序文」でして、たとえ本体は読まずとも、これだけは必読。読者への愛情と激励に満ちた切々たる名文である。とりわけ私の持業はつぎのくだりだ。もしも私（デカルト）が序文を書いたなら、という体裁で書かれている。

「また私はこの書物の読み方についてひとこと注意の言葉を添えたことでしよう。最初は小説を読むようなふうに全体をざっと通読して欲しいと思います。あまり向きになって注意力を集中したりせず、また難解なところに会ってもそれをあまり気にしないで、ただ大体において何が論じられているかを知ることです。その上で、もしこれは検討してみてもいいことだと思ひ、その理由が知りたくなったら、再読して私の論証の筋道を辿って下さればいいのです。それでもなおその筋道を限なく充分に知ることができず、その論拠を残らず理解するというわけに行かなくても、まだ投げ出しはなりません。難しいと思ったところにはペンで線を引いて、とにかく終わるまで続けて読んでしまうことです。そうすれば三度目に書物を取り上げるときには、先に難解と思ってしるしをつけた箇所の大部分

が解けるようになってるでしょうし、それでもまだ疑問が残るとしても、もう一度読み返せば、ついにはすっかり解けるだろうと私は信じております。」

そうか、読むべき書というものは四度読むんだよ。ただし図書館の本にはペンで線を引いてはいけません。これがデカルト先生その人の御言葉かと思うと感激するね。そして勇気が湧いて来る。ぜひ仏訳序文全体を読んで頂きたい。岩波文庫や中公パックス世界の名著にもある。上の訳は附属図書館にある白水社版デカルト選集から拝借した。ついでに言うと、調べもののあるときは図書館や書店を廻るぐらいのことを怠けてはならない。だって君、昔は某所に書物ありと聞けば、妻子にしばしの別れを告げ、有り丈の金貨をラクダの背に積んで出掛けたださうでせう。今は〇〇〇。

つぎは黒田成勝先生、私の数学科三年生のときの思い出。当時、先生はご自身の師匠にあたる高木貞治の『解析概論』の改訂をなさっていらして、そのグラ刷り片手に一年間、私ともに解析の講義をして下さった。試験もあったが、黒田先生の監督もいなければ時間も無制限。その頃は「競争的環境の中で個性が輝く大学」なんてイヤ味な言葉はなかったからね。試験時間中に連れ立って食堂へ行ったりしましたっけ。

しかし試験が終わった翌週のこと、私たちは一人ずつ先生の前で未採点のままの自分の答案の説明をさせられるのであった。当然不勉強にして出来ない私は、ひたすら弁解と釈明にこれ努めた。コンナ方法デハ全然ダメデシテ、ソモソモ問題ヲ取り違エテマシテ、実ハ、カクカシカカ、コウスペキデシタ、ってな具合。忘れもしないその瞬間、黒田先生は事もなげに、しかしはっきりと、こう発せられたのである。

「いま分ってれば、良いのです。」

嗚呼有難き哉、合格。短い強い激励。私は未だにこの言葉に慰められ助けられているのだ。考えてもごらん。長い長い数学研究。一週間前か後かが問題であろう答がないじゃないか。ところで、私にはこの強烈な原体験があるものだから、教師となつてからも学生につける成績がついつい甘くなつちまう。しかしこれは間違いだ。「いま分ってない」学生にまで合格点を出し

てはいけない。自戒シテル。

簡潔な言葉であるが、反芻するたびに今は亡き偉大な黒田成勝先生の暖かさと厳しさが一度によみがえる気がする。

さて、西暦二千年の学生諸君に考えて貰いたい問題がある。それは書物と図書館の将来である。電子ブックやインターネット上の各種データベースに見られるように書物の世界はいまや電子化によって凄まじい変容を遂げつつある。五百年の昔、印刷術の発明は出版の隆盛を呼び、世界中の人々に計り知れない恩恵を齎した。ラクダの長旅は無用となったのである。今日、町の本屋に既にその行く末に危機を抱いた人がいた。それは、筆写の洗礼を経ない書物の氾濫である。正に現実となった。今日、町の本屋には、カゲロウと同じ寿命の書物が溢れ、人々はそれらを唯々消費する。三百年前にイタリアの哲学者ヴィーコは、数世紀の判断を経た読書をせよ、そして正しく思索せよ、と警告していた。明日にも電子出版は巨大な瀑布となって爆発するであろう。それは、ラクダの長旅のみならず、図書館をも放逐してしまうのだろうか。

願わくは、いましばし、われらが附属図書館は読書と思索の場であれ。そして学生諸君は古代人のような態度で図書館に親しみ給え。それが学生の幸せというものだ。新入生に幸いあれ。

(理学部数学科)

【参考文献】

・Descartes, R.

『デカルト著作集』 1&3 白水社

【135.1/D64/1,3】本館開架

『世界の大思想』 21 河出書房新社

【080/se224/21】本館開架

『世界の名著』 22 中央公論社

【080/6/22】分館開架

等々。

・Vico, Giambattista

『学問の方法』 岩波書店 (岩波文庫)

【137.1/V67/B】本館閉架

* 本の探し方は、p. 8にあるセミナー、またはオリエンテーションにて説明します。是非ご参加ください。

「新入生が自分に薦める本を見つけるために」

杉山 茂

本を読むことが、広くかつ体系だった教養を持った、専攻する学問領域を決めたり、専攻分野（において行われている議論）の概略を理解したりするためならば、私が新入生に薦めることは、一冊の本を取り上げることはありません（感動しました、これが私の青春の一冊です！）。それよりも多くの著作の背表紙を見て、より多くの本を手にとって見ることで、一体、自分は何を面白いと感じるのだろうか？自分を魅了する著者は、一体誰なのだろうか？事実と意見を明確に区別する、手本にしたいと思わせるような明晰な文章はどこにあるのだろうか？これらを、偶然に賭けをして、見つけることが大事です。

私がこのような読書体験をしたのは、高校3年と浪人時代に東京都立中央図書館で受験勉強をしている時でした。各階の広い閲覧室にある人文科学図書、社会科学図書、自然科学図書（静大図書館の開架図書の3倍以上はある）の中から、目につくタイトルを片端から手にとってページをめくって読み飛ばしました。その中で出会ったのが、『桑原武夫全集』や武谷三男や林達夫、花田清輝の著作集です。とりわけ『桑原武夫全集』の登山、歴史、フランス・中国・日本文学、美術、フィールドワーク、人類学などの社会諸科学、共同研究、友人を介して得た工学上・自然科学上の問題や友人をめぐる彼の文章は、学問に論争が存在することのみならず、専門を持ちながらも一人の人間がどれほどの知的活動ができるか（あるいは、すべきか）、学問諸領域は相互に閉鎖的に分立しているのではなく、少なくとも人を通じて関係を持っているを知ることができました。一冊の本ではなく、誰かの全集あるいは著作集をすべて読み通すこと、そして読むに値する著者を見つけることが大切です。それには、多くの著作に直接あたらなければなりません。

しかし、時間は限られています。関心をもった著者や共通教育で出会う学問領域や専門上の学問領域の概略とそこで行われる議論を、限られた時間の中で理解するためには、関係する著者や学問領域の Bibliography（文献目録）を作る必要があります。加えて、その中の文献を手に入れて、一定の時間内で読み通す（あるいは目を通す）ことが必要です。静岡大学の場合は、2学期制を採用していますから、講義に関係する科目については

約14週間以上の作業をしなければなりません（試験は夏休み前にあるから夏休みを文献収集と実際の読書の時間に使うことはできません）。

まず、開架図書（静大所蔵図書の10分の1程度？）という限られた中から関心を引き付けるものを探し出します。その領域に関する文献目録をさらに OPAC とカード・カタログ（！今って2000年？）を使って作ります（文献目録が充分かどうかは関係する学問領域の教員に尋ねれば良いでしょう——大学のスタッフ・施設は使い倒しましょう、学費を払っているのだから、使い倒せるようなサービスを提供してこそ、大学です。それと、身分上の「学生」は質問をしてこそ、学生になるということ覚えておきましょう）。NACSIS Webcat (<http://webcat.nacsis.ac.jp/>) も使いましょう。

それから文献を実際に集めます。開架図書から引っ張り出す（以下、順々に困難度が増す）。学部学生には閉じられていた開架書庫の図書を、OPAC とカードカタログを使って、用紙に書き込みをし、図書館員に持ってきてもらう。浜松キャンパスにない図書を静岡キャンパスから送ってもらう（あるいはその逆）。静岡大学にない図書を相互貸出制度で手に入れる。静岡大学所蔵図書であるけれども教員研究室にある図書をなんとか手を尽くして手に入れる……。このようにして、ある分野を実際に理解する準備が整います（嗚呼、疲れた！）。そして、読む、さらに講義にも出席する、課外活動もやる、学費が高い遊び資金も要るからアルバイトもしなければならぬ……。とても忙しい！

このような読書で得られた知識体系を何らかの形で、お互いに関係付けることによって、新しい研究領域や仕事上の課題が見つかります。読書は、ですから、「私、これも知ってます」という街学趣味や、 $1+1=2$ ということを知るためだけではありません。自分の説得的でオリジナルな視点を作る、批判的な考え方を身につける等々、厳しくなってきた労働市場や国際社会で生き残るために必要な手段が、読書です。質も大事ですが、量も大事です。一週間で300回程度は、ページをめくります。新入生である貴方、今日は何回ページをめくりましたか？

(情報学部情報社会科学)

新入生のための



図書館案内

開館時間

平日：午前9時～午後8時

土曜日：午前9時～午後5時

学生の休業中 平日：午前9時～午後5時

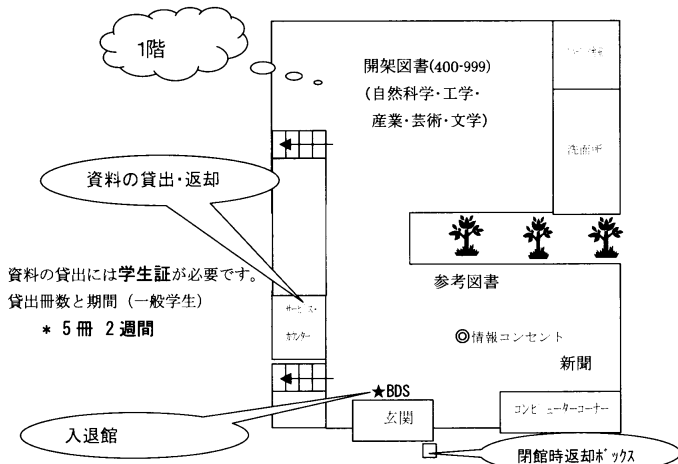
土曜日：休館

休館日

日曜日・国民の祝日・休業期の土曜日・

年末年始(12月28日から翌年1月4日まで)・

創立記念日(6月1日)・その他の臨時休館日



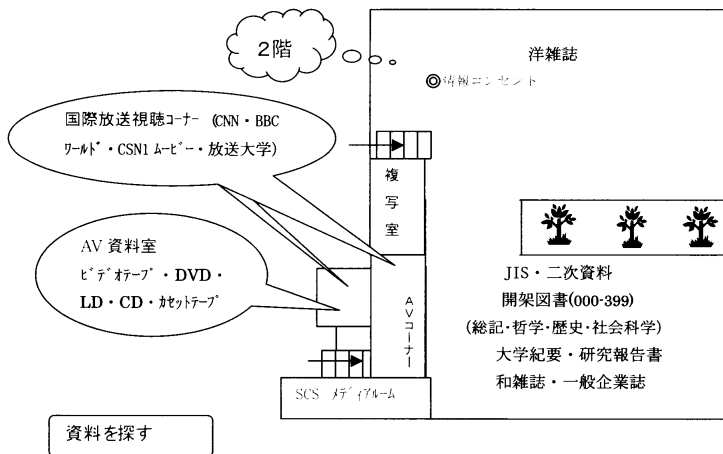
手荷物を持ったまま入館できます。

資料の貸出手続きをしないで、★出口ゲートを通ると BDS (Book Detection System) が作動して**ブザー**が鳴り通過出来ません。

閲覧

閲覧室内の図書・雑誌・新聞は自由に閲覧できます。

書庫内の資料を利用したい時はサービスカウンターに申し出てください。



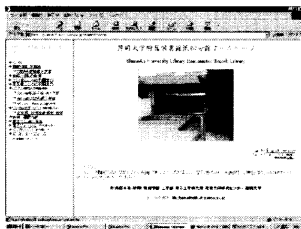
図書館の蔵書(図書・雑誌)は浜松分館のホームページで調べることができます。

OPAC (Online Public Access Catalog: オンライン蔵書目録) で検索してください。

★注意: 1989 年以前の図書受入分はカード目録もご覧ください。

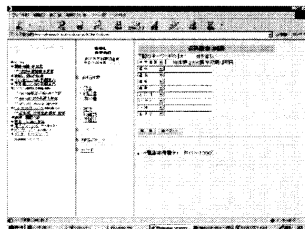
浜松分館ホームページ

(<http://ghmbun31.lib.shizuoka.ac.jp/HAMABUN.htm>)



OPAC(オンライン蔵書目録)

(<http://lib.shizuoka.ac.jp/opac4/index.html>)



Mini博物館

テレビジョンの創始者
高柳健次郎の展示コーナー

「イ」の字の写真

ブラウン管・アイコノスコープ・その他資料



分からないことは、お気軽にサービス・カウンターにお尋ねください

4～9月の開館日程表

本館（静岡）

4月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

5月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

☐ 開館 平日 9:00～22:00 土曜日 11:00～19:00

☐ 開館 平日 9:00～17:00 各季の休業期間中

☐ 休館 日曜・祝日、創立記念日、年末年始、各季の休業期間中の土曜日

※ その他の臨時の休館日は、別途お知らせします。

分館（浜松）

4月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

5月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

☐ 開館 平日 9:00～20:00 土曜日 9:00～17:00

☐ 開館 平日 9:00～17:00 各季の休業期間中

☐ 休館 日曜・祝日、創立記念日、年末年始、各季の休業期間中の土曜日

※ その他の臨時の休館日は、別途お知らせします。

教官著作寄贈図書一覧

*このリストは本学教職員により著作(等)され図書館にご恵贈していただいた図書を一覧にしたものです。受入期間は平成11年9月から平成12年1月までです。

●本館受入●

◇森野聡子 (情報学部)

・ヘンリー八世の六人の妃 (アントニア・フレイザー著) 森野聡子, 森野和弥 <訳> 創元社 【244.493/F45】開架

◇坂田薫子 (教育学部)

・音楽で拓く「総合的な学習」(佐野靖編著) <執筆> 教育芸術社 【375/SA66】

◇山本義彦 (人文学部)

・静岡県・起業家を生み出す風土 (静岡総合研究機構編著) <執筆> 静岡新聞社 【335.13/SH94】

◇高村ゆかり (人文学部)

・人口法学のすすめ : 少子化社会と法学の課題 (野村好弘, 小賀野品一編 ; 野村好弘 [ほか著]) <執筆> 信山社出版 【334.3/N95】

・環境 NGO : その活動・理念と課題 (山村恒年編) <執筆> 信山社出版 【519.8/Y32】

◇眞田孝昭 (教育学部)

・ラルース臨床心理学事典 (N・シラミ著) <共訳> 弘文堂 【146.03/S14】

◇静岡大学教育学部附属島田中学校

・教科の本質・魅力に出会う授業づくり : どうですかこんな授業 <著> 明治図書出版 【375.1/SH94】

◇長岡宏 (名誉教授)

・長岡宏絵画作品集 <編集・デザイン> 長岡宏 【723.1/N18】開架・閉架

◇静岡大学 50 周年記念誌編集委員会

・静岡大学の五十年 : 通史, 写真集 <編集> 静岡大学 【377.28/SH94/1-2】開架・閉架

図書館の動き

会議

平成11年度国立大学附属図書館事務部長会議

(平成12年1月20日 於: 群馬大学)

事務部長が参加。

当番館である群馬大学附属図書館長及び文部省学術国際局学術情報課長の挨拶に引き続き、北海道大学から提案された「雑誌の

集中/分散化と学内利用者へのサービス体制について」を始め各国立大学から提案された7件の協議事項について、協議を行った。

平成11年度第3回附属図書館委員会
(平成12年2月18日 於: 図書館大会議室)

議題

1. 平成13年度概算要求について
2. 平成13年度以降の図書館予算の確保について
3. 平成12年度の新入生に対する利用者セミナーについて
4. その他

報告事項

1. 大型コレクションの購入について
2. 不用図書について
3. 平成12年度附属図書館委員会の委員選出について
4. 4年一貫教育に係る教養教育図書等について
5. その他

研究集会

図書館研究集会

「大学図書館と情報リテラシー教育」
(平成11年12月2日 於: 静岡大学大会議室)

静岡大学附属図書館・静岡県大学図書館協議会の主催で開催した。

研究集会は第1部シンポジウムと第2部総括講演で構成され、本学教職員の他、県内外大学図書館関係者等50名の参加があり、情報リテラシー教育の関心の高さを示した。

第1部シンポジウム「情報リテラシー教育の今後に向けて」では、平元みさえ京都大学附属図書館参考調査掛長による講演「京都大学附属図書館に於ける情報リテラシー教育」に引き続きパネルディスカッションを行い、「情報」についての学問的な解釈にまでも及ぶ白熱した議論が展開された。第2部総括講演では、三浦逸雄東京大学大学院教育学研究科教授による講演「デジタル環境下に於ける大学図書館の教育・学習支援機能—情報リテラシー教育を中心に—」がなされ、内外の大学図書館情報リテラシー教育の紹介と、昨今の教育・研究環境の急激な変化に対応した情報リテラシー教育の変化の必要性が提示され、そのためには、学内諸機関との連携が重要であるとの提言がなされた。

より多くの新生入生に図書館を使いこなしていただくために

新生入生セミナー（静岡キャンパス）で 「附属図書館利用セミナー」を実施！！

本館では、従来4月から5月にかけて図書館で行ってきました「ライブラリー・オリエンテーション」を、今年度は「新生入生セミナー」の授業の一環として（5月～6月中の講義の中の1コマ）で実施することになりました。是非この機会に図書館の活用方法を知り、学習・研究に図書館を役立たせ4年間のキャンパスライフを充実させて下さい。以下がセミナーの主な内容です。

なお、担当教官によっては「附属図書館利用セミナー」が含まれない「新生入生セミナー」があります。その場合は、「附属図書館利用セミナー」終了後ライブラリー・オリエンテーションを開催する予定ですのでそちらに参加して下さい。時期等の詳細は図書館ホームページや掲示等で追ってご案内いたします。

期 間：5月～6月の新生入生セミナーでの1コマ

- 内 容：1. パソコン利用による図書館の蔵書の調べ方
2. インターネットでの情報収集の仕方
3. 図書館の施設や設備の案内
4. 書庫内資料の見学

場 所：図書館5階第2閲覧室 (HARVEST ROOM)

浜松分館ライブラリー・オリエンテーションのご案内

浜松分館では、新生入生のためのライブラリー・オリエンテーションを4月中旬から5月末まで以下の内容で開催することを予定しています。

- ① 図書館利用案内と館内ツアー
- ② OPAC (本学蔵書目録) の検索法
- ③ NACSIS-Webcat (全国大学図書館等総合目録) の検索法
- ④ 論文検索等に役立つCD-ROM資料の利用法

図書館を活用するために是非参加して下さい。(新生入生でなくても歓迎！)